

令和7年1月31日

八幡平市議会議員 工藤 隆一 様

八幡平市長 佐々木 孝 弘



令和6年度八幡平市議会報告会「議員と語る会」で寄せられた要望・提言等に
係る市の対応方針について（回答）

令和6年12月27日付け八議事第122701号で通知のありました標記について、次の
とおり回答します。

記

(1) 八幡平市役所大ホール（令和6年11月15日・1班）

- ① コミバスの運行に関して、大きなバスは必要ない。ハイエースクラスのバスを
用いたフルデマンド方式が良いのではないかと。また、コミバス運行事業を近隣の
市町村を参考にして、細かな路線まで対応できるようにするべきである。

【回答】

市では、鉄道やバス、タクシーといった既存公共交通の空白を補完するため、
西根・松尾地区コミュニティバス6路線、安代地区コミュニティバス3路線、兄
畑駅と市立病院を結ぶ幹線バスを運行しております。一部路線についてはデマン
ド型で運行しておりますが、多くの路線は、定時定路線型により運行している
ところですが、多くの路線は、定時定路線型により運行しているところ
です。しかし、人口減少等に起因し、コミュニティバスの利用需要が減少し
ている中で、定時定路線型によるメリットが見出しにくい路線が出ていること
から、昨年3月に策定した八幡平市地域公共交通計画においては、点在する少ない
需要を効率的にカバーするため、デマンド型交通の導入を図るとしたところ
です。

持続可能な交通ネットワークの構築には、公共交通事業者の力を最大限活用
することが大切でございますので、今後も、民間交通事業との兼ね合いや限られた
ドライバー、車両等の条件を考慮しながら、慎重に進めてまいりたいと考えて
おります。

【回答担当課：まちづくり推進課】

- ② 農家は、物価高騰による経費の増大に苦しんでいる。対策をしてほしい。

【回答】

物価高騰対策として、令和4年、令和5年の2ヵ年において、肥料価格高騰対策事業を実施し、令和6年度につきましては、農業経営に係る動力光熱経費の補助を実施いたしました。

現在、農業資材等の物価の高騰、農畜産物の価格低迷などが続いている状況にあります。

市といたしましては、国の動向や市場価格の状況を確認しながら、支援を検討してまいりたいと考えております。

【回答担当課：農林課】

- ③ 大更前顔づくり施設に移転する図書館は、地域文化の象徴でもあるため、蔵書の充実を希望する。また、図書館の利用を積極的に促すべきである。電子図書やインターネットでは得られない知識を提供する場として、普段触れる機会が少ない医学や芸術など、専門的な知見も体験できる場として整備してほしい。

【回答】

大更駅前顔づくり施設に移転し令和8年4月にオープン予定の新市立図書館は、床面積が現在の図書館の約7割増となることから施設内の各種機能の向上が図られ、蔵書数も現在の約55,000冊から将来的には90,000冊まで増やすことを見込んでおります。大更駅前という利便性の高い場所で併設される子育て支援施設等との相乗効果も大いに期待されますので、これまで以上に各種イベントや蔵書、図書館サービスの充実を図るとともに、子どもからお年寄りまでどの年代の方々にもわくわく感を持って本に親しんでいただけるような、八幡平市らしい魅力的な図書館となるよう整備してまいります。

【回答担当課：教育総務課】

(2) 大更コミュニティセンター（令和6年11月16日・2班）

- ① 市内の自主防災組織の運営・指導について、市がもっと力を入れるべきである。

【回答】

自主防災組織は地域住民による主体的な組織であることから運営に関して市が直接関与することはございませんが、活動等に関して必要な指導・助言等は行っております。

【回答担当課：防災安全課】

- ② 市の基幹産業である農業振興を進めるべきである。新規就農者の育成を図るために消費者や企業からの募金を募り、設備投資の軽減化を図る施策を考えてほしい。また、市内の農家を支援することに力を入れるべきである。

【回答】

新規就農者の支援につきましては、現在国の「新規就農者育成総合対策」により、設備投資に対する補助として経営発展事業を利用し、国が1/2、県が1/4、合計3/4補助を受けられる制度がございます。条件はございますが、これまでに3名の新規就農者が採択となり利用しています。自己負担部分1/4につきましても、青年等就農資金という実質無利子で融資を受けることができる制度があり、新規就農者の経営発展に大きく寄与していると認識しております。また、新規就農者につきましては、設備投資だけでなく、経営が軌道に乗るまでの3年間、生活資金支援として経営開始資金という年間150万円支援する制度もあり、毎年数名が利用しております。

市といたしましては、現在活用できる国庫補助を利用しながら支援しつつ、市単独事業である「農（みのり）の大地担い手育成支援事業」により、認定農業者、認定新規就農者への機械・設備投資に対する補助、ドローン講習受講料への補助を行い、ソフト面ハード面共に支援して参ります。

【回答担当課：農林課】

③ 共働き家庭が多いので、朝早くから夜遅くまで子どもを預けられる場所や病気時に保育サポートできる場所を作ってほしい。

【回答】

現在市内の保育施設では、施設ごとに相違はありますが、早朝保育を7時から、夕方は延長保育を19時まで行っており最長12時間の保育が実施されています。現在は19時以降の保育は検討していない状況ですが、今後ニーズを把握して参りたいと考えております。

また、病気時に保育サポートできる場所（病児・病後児保育事業）については、今後、近隣自治体の取り組み状況も参考に保育施設等での実施を検討して参ります。

【回答担当課：地域福祉課】

(3) 荒屋コミュニティセンター（令和6年11月16日・1班）

① 八幡平市は、ごみのリサイクルが十分に進んでいないように感じる。リサイクルの強化・分別方法の強化指導を行ってほしい。

【回答】

資源ごみとして分別収集を行っている品目の中では、「空き缶」、「空きびん類」、「ペットボトル」、「新聞紙」、「雑誌」、「段ボール」は、排出方法が比較的分かりやすいため、市民の皆さんへも浸透しリサイクル品として再資源化が図られておりますが、「紙パック」、「トレイ類」、「雑がみ」は燃えるごみとして安易に捨てることのできることから、燃えるごみの中に混入され排出されているケースが多く見られております。そのため、市としましても、現状におけるリサイクルの向上を図るため、燃えるごみの中に多く含まれている「雑がみ」の分別徹底が一番効

果があると考え、これまでも、広報やホームページ、出前講座などによりお願いしてきたところではありますが、県下でもリサイクル率は下位に位置している状況が続いているため、まだまだ周知啓発が足りなかったものと捉えております。

今後は、現在行っている啓発活動を強化するとともに、資源ごみの集団回収事業報奨金交付制度による地域等での取組を進めるほか、地域単位での説明会の開催を行っていきます。

また、未実施となっておりますプラスチックごみの分別収集につきましては、排出抑制と再資源化の一番の重要課題と捉えておりますので、引き続き早期の導入開始に向け取り進めてまいります。

【回答担当課：市民課】

② 農家は物価高騰による経費の増大に苦しんでいる。対策をしてほしい。

【回答】

物価高騰対策として、令和4年、令和5年の2ヵ年において、肥料価格高騰対策事業を実施し、令和6年度につきましては、農業経営に係る動力光熱経費の補助を実施いたしました。

現在、農業資材等の物価の高騰、農畜産物の価格低迷などが続いている状況にあります。

市といたしましては、国の動向や市場価格の状況を確認しながら、支援を検討してまいりたいと考えております。

【回答担当課：農林課】

③ シルバー人材センターに登録しているが、仕事をしたくても仕事がない状況である。シルバー人材センターの事業内容を広く情報発信してほしい。また、冬期間の人材募集についても多く情報発信してほしい。

【回答】

シルバー人材センターに問い合わせた結果、ご指摘のとおり安代地区は、会員数や仕事の受託量が、西根・松尾地区と比較して少ない状況にあると聞いております。シルバー人材センターの対応としましては、会員の増強と就業機会の積極的な開拓を事業計画の重点事項として掲げており、受託事業契約を増やすため、広報誌「シルバー八幡平」により活動内容の情報の発信に努めていくほか、人材募集の方法を今後検討していきたいとしております。市といたしましても、広報誌の全戸配布や、人材募集の情報発信について、支援してまいりたいと考えております。

【回答担当課：健康福祉課】

(4) 八幡平市市役所多目的ホール（令和6年11月21日・2班）

① 繁殖育成センターの利用が少ない理由は。また、繁殖育成センターは時流に合

わないのではないかと。本当に作る必要があったのか。

【回答】

繁殖育成センターにつきましては、平成 22 年度に新岩手農業協同組合より、その設置について要望があり、以来、市内の酪農家や和牛繁殖農家を含め協議を重ねて設置に至ったものであります。

設置計画当時から時間を経て、現在の畜産情勢を取り巻く状況は生産費の高騰や販売額の低迷により厳しい経営となっていることから、農家の預託意欲が停滞し、利用が少ない状況となっております。

そのような中で当施設は、飼養頭数の維持、拡大が図られるとともに、畜産農家数の減少を和らげることが期待され、畜産振興のためには大変重要な施設であると考えておりますので、今後も施設の PR を積極的に展開しながら預託農家に対するメリット措置等を検討し、預託頭数の増頭に向けて取り組んでまいります。

【回答担当課：農林課】

- ② コミバスは、車いすで乗降できるようにしてほしい。また、雫石町では、1 回 200 円で利用できる「あねっこタクシー」を運営している。八幡平市でも検討してほしい。

【回答】

西根・松尾地区コミュニティバスは車いすでの利用が可能ですが、安代地区コミュニティバスでは利用が出来ない状況でありご不便をおかけしております。全てのコミュニティバスを車いす対応可能とするには、新たな車両の導入や、それに伴うドライバー育成等の課題があり、現状、解決は難しいと考えております。

次に、新たな運行形態の導入に関してですが、八幡平市地域公共交通計画においては、点在する少ない需要を効率的にカバーするため、デマンド型交通の導入を図るとしており、今後の検討においては他自治体の事例を参考としながら、持続可能な交通ネットワークの構築に向け取り組んでいきたいと考えております。

【回答担当課：まちづくり推進課】

- ③ 地域の声が市に届きにくなっているの、コミュニティセンター単位でテーマトークを開催してほしい。また、市民から出ている意見を、少しでも市の総合計画に反映してもらいたい。

【回答】

市では、市民の生の声を市政の推進に生かし、市民と協働した住みよい地域づくりを目指すことを目的に、対話方式で市長と直接語り、意見を交換する「フリートーク」や、市が提案する特定の政策課題に特化して市民のみなさんと意見交換する「テーマトーク」を行っています。

テーマを設定せず、自由に意見交換するフリートークは、5 人以上のグループを単位に開催申し込みを受け付けており、コミュニティセンターや各地区の集会

所など、申し込まれる方がご手配いただいた場所に市長が出向き、率直な意見や提案をうかがいながら、地域の課題を共有します。

申し込み方法などは、市ホームページに掲載していますのでご確認ください、希望する開催日の概ね1カ月程度前までに申し込み・ご連絡をお願いします。

また、昨年9月から10月にかけて各地域振興協議会の皆様の協力をいただき、全12か所のコミュニティセンターで、次期総合計画策定に係る「市長とのトークトーク」を開催いたしました。全体で170件ほどの様々なご意見・ご要望をいただき、非常に前向きなご提言もいただいております。

今後は、いただきましたご意見やまちづくりアンケートの結果等も考慮しながら、計画の骨子等を作成し、改めて、市民の皆様とのテーマトークあるいは団体等の皆様と意見交換をしながら、より具体的な計画策定に結びつけてまいります。

【回答担当課：企画財政課】

【お問い合わせ先】 総務課 根守 緑 内線 1231
